

第1章 湖南省の現状

1 湖南省の概況

(1) 地理的条件・自然的条件

湖南省は滋賀県南部に位置し、大阪、名古屋から 100km 圏内にあり、近畿圏と中部圏をつなぐ広域交流拠点にあります。南端に阿星山系を、北端に岩根山系を望み、これらの丘陵地に囲まれて、地域の中央を野洲川が流れています。野洲川付近一帯に平野が開け、水と緑に囲まれた自然環境に恵まれた地域です。

(2) 歴史的・文化的条件

本地域は古くは近江と伊勢を結ぶ伊勢参宮街道として栄え、江戸時代には東海道五十三次の 51 番目の石部宿が置かれ、街道を中心とした産業や文化が栄えました。また、市内には「湖南三山」と称し、それぞれ国宝の建造物を有する常楽寺、長寿寺、善水寺のほか、由緒ある社寺が点在しているとともに、天然記念物のウツクシマツ自生地やステゴドンゾウの足跡化石が出土するなど歴史文化・自然遺産が豊富です。

名神高速道路の開通に伴い、栗東および竜王インターチェンジ等に近接する有利な立地条件を利用して県内最大の湖南工業団地が造成されました。

また、国道1号ならびに県道4号、JR草津線が地域を東西に横断しており、鉄道に関しては石部駅・甲西駅・三雲駅の3駅が設置され、京阪神都市圏への通勤通学の利便性の高まりにより、ベッドタウンとしての住宅地開発が進みました。近年では、栗東湖南インターチェンジ、国道1号(バイパス)等による広域交通の整備によりさらなる利便性が向上しています。

このように、江戸時代以前の昔から現代に至るまで、常に交通の要衝として発展し続け、さらに比較的温暖な気候や野洲川を中心に開けた平野に恵まれたこともあって、様々な産業と文化が育まれるとともに、豊かな居住環境が提供されてきました。

(3) SDGsの理念に基づく持続可能なまちづくりの推進

SDGsとは、「Sustainable Development Goals」の略であり、平成 27 年(2015 年)9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された国際社会の共通目標です。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向けて、2030 年を年限とする 17 のゴールと 169 のターゲットから構成されています。

本市は、令和2年(2020 年)7月に「SDGs未来都市」として、内閣総理大臣から認定を受け、SDGsの基盤となる経済・社会・環境の三側面の取組により地域課題解決につなげていきます。



(4)保健医療圏域

滋賀県では7つの保健医療圏域が設定されているなかで、湖南市は「甲賀圏域」として甲賀市とともにひとつの保健医療圏域を構成しています。

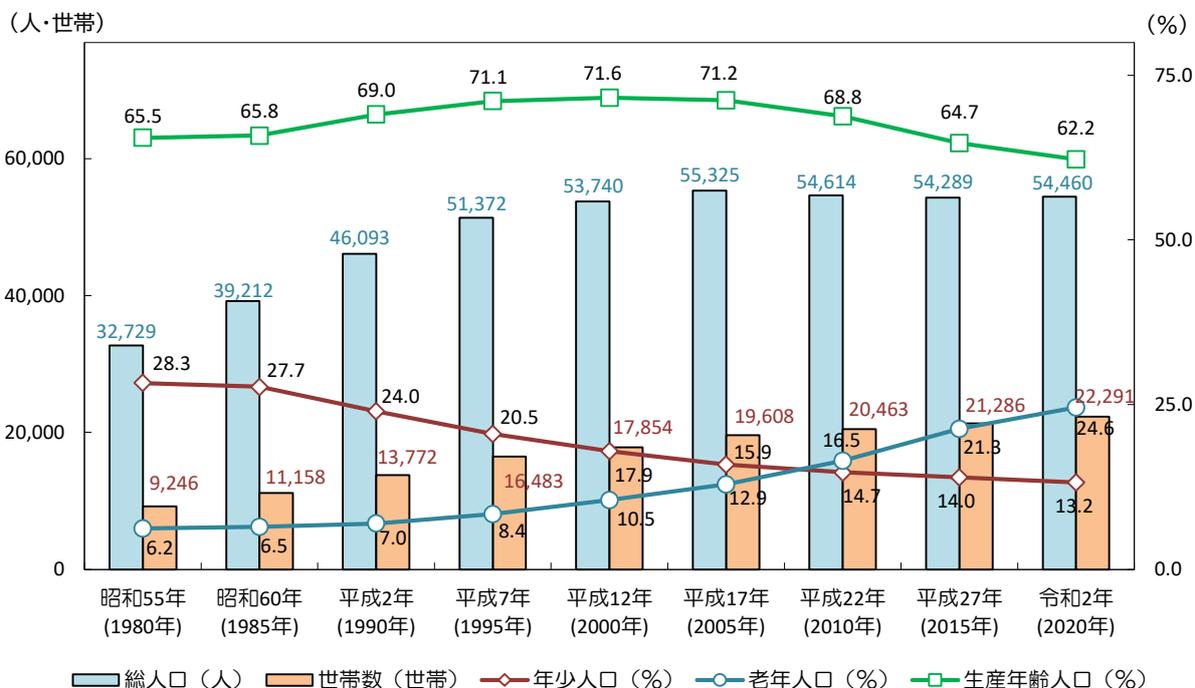
(5)人口の推移

湖南市の総人口は1970年代の高度経済成長期から1990年代のバブル経済期の間にかけて急増しましたが、平成7年(1995年)あたりから総人口の伸びが鈍くなり、平成17年(2005年)頃(住民基本台帳ベースでは平成18年(2006年))にはピークを迎えた後、減少期に入り、令和2年(2020年)では54,460人となっています。

年齢3区分別人口の割合をみると、年少人口(15歳未満)は減少傾向にあり、平成22年(2010年)には老年人口(65歳以上)を初めて下回り、令和2年(2020年)では13.2%となっています。老年人口(65歳以上)は一貫して増加傾向にあり、令和2年(2020年)では24.6%となっています。

世帯数は昭和55年(1980年)から緩やかな増加傾向を示し、平成22年(2010年)には2万世帯を超えましたが、近年増加率は鈍化しつつあります。

■図 人口・世帯の推移



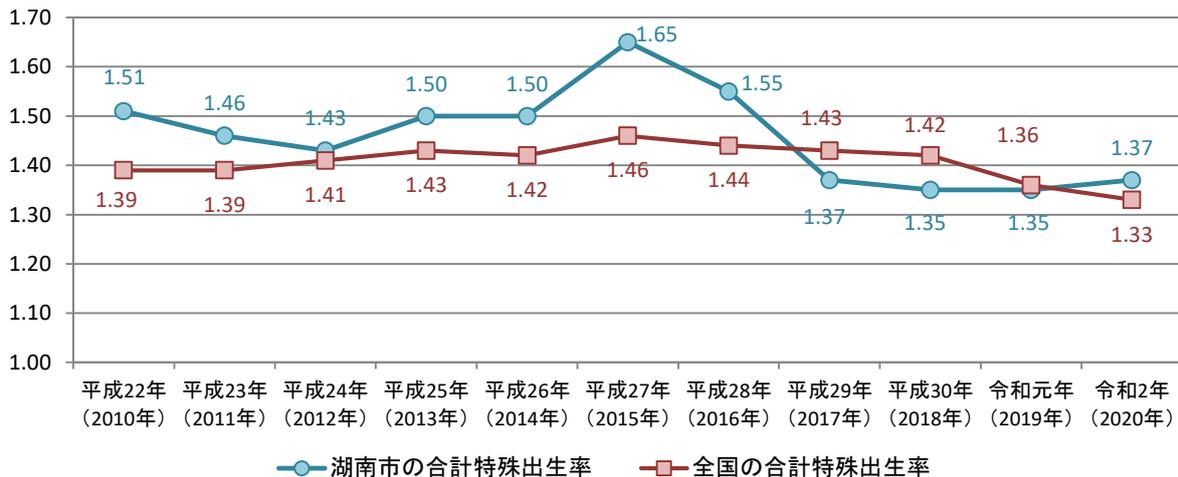
※出典:国勢調査

年少人口は0歳~14歳、生産年齢人口は15歳~64歳、老年人口は65歳以上
%はそれぞれ総人口に占める割合
ただし総人口は年齢不詳を含む

(6)出生の状況

湖南省の合計特殊出生率は平成 17 年(2005 年)の 1.25 から緩やかな増加傾向にあり、平成 27 年(2015 年)で 1.65 になりましたが、その後減少に転じ、令和 2 年(2020 年)では 1.37 となっています。

■ 図 合計特殊出生率の推移



※出典:甲賀保健所事業年報、人口動態統計等

※合計特殊出生率とは、一人の女性が 15 歳から 49 歳で産む子どもの数

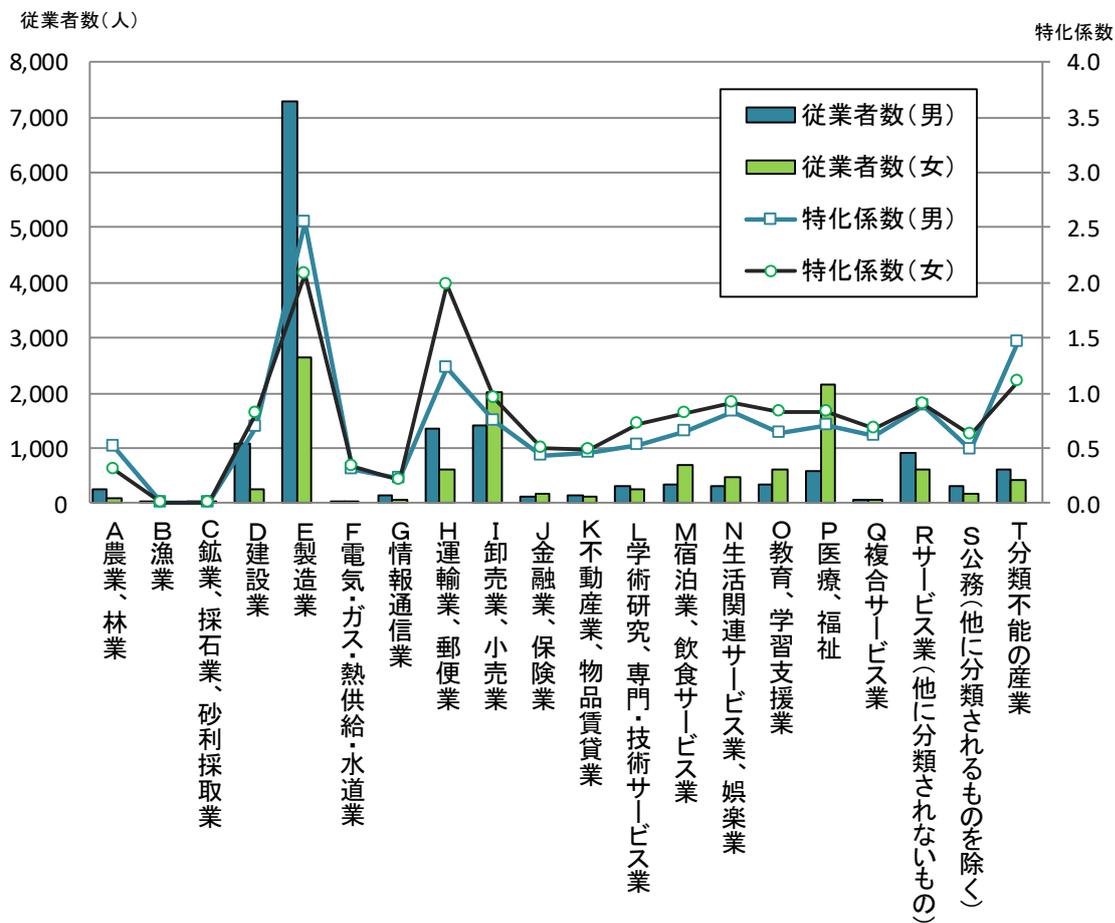
(7)就業構造

産業別の従業者人口を見ると、製造業の従業者数が突出して多くなっており、特に男性において顕著となっています。運輸業、郵便業の従業者も多くなっており、主たる産業の一つとなっています。

女性は全体的に男性よりも従業者数が少ない状況にあります。女性が男性よりも従業者数が多い産業分類としては、医療、福祉分野や卸売業、小売業、教育学習支援業などとなっています。

全国との比較を特化係数から見ると、製造業、運輸業、郵便業の従業者数が非常に多くなっており、これらの産業が主要産業であることを示しています。

■ 図 男女別産業別従業者数および特化係数



※出典:令和2年(2020年)国勢調査

※特化係数:湖南省の各産業の従業者比率÷全国の各産業の従業者比率

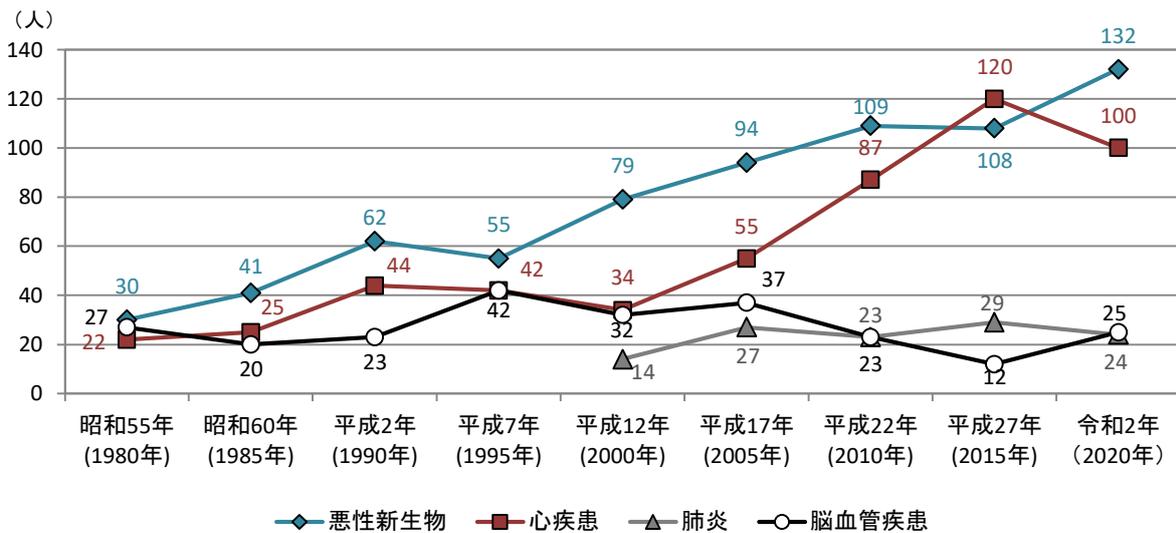
2 市民の健康状態

(1)死亡の状況

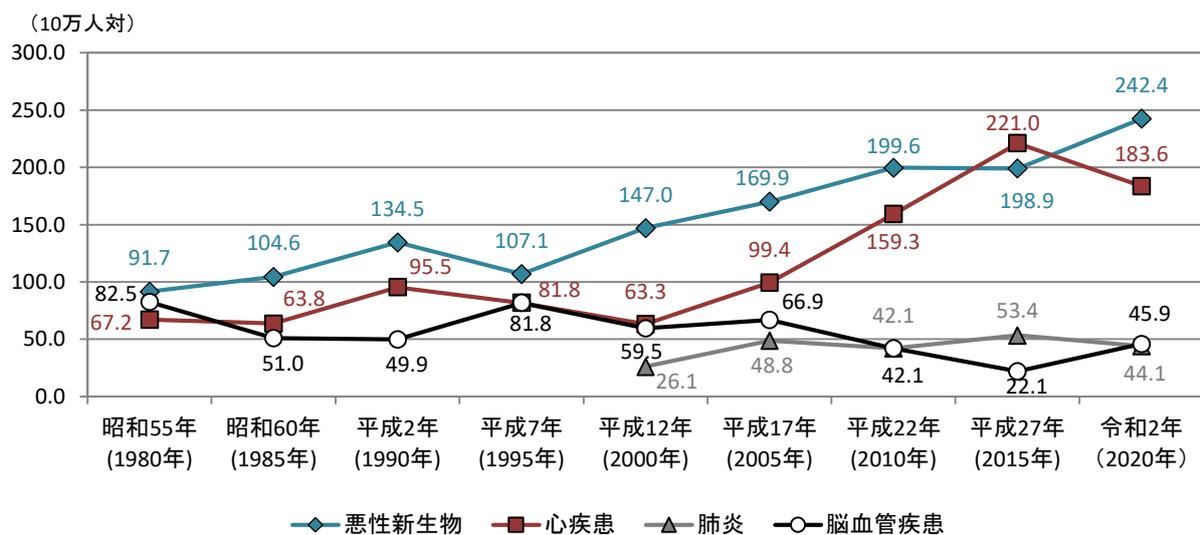
湖南省市の3大疾患の死亡統計をみると死亡数、人口10万対死亡率ともに、がん(悪性新生物)および心疾患が高く、次いで脳血管疾患、肺炎が続いています。

このように湖南省市では悪性新生物、心疾患が留意すべき疾患といえます。

■図 疾病別死亡数の推移



■図 疾病別死亡率の推移

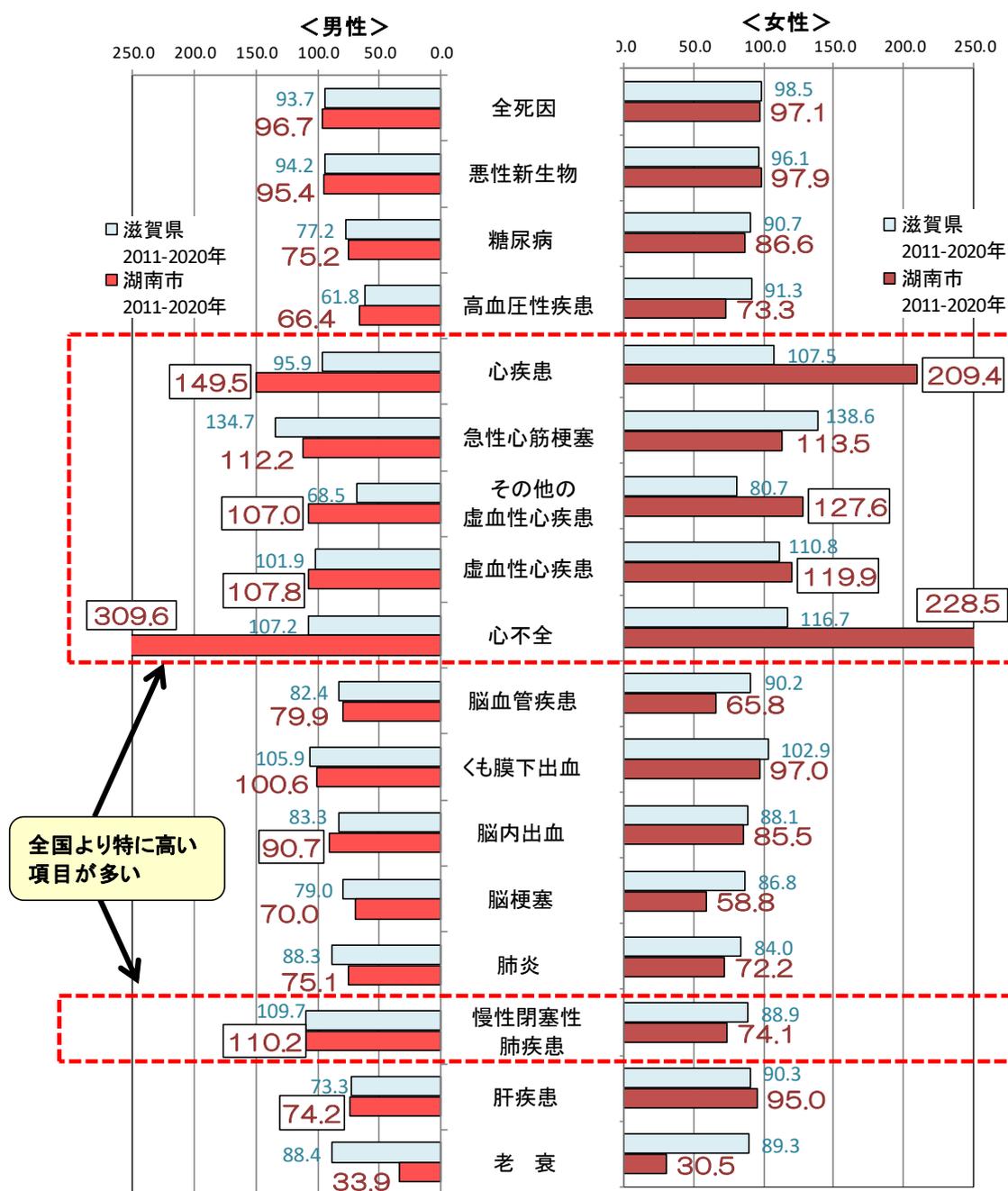


※出典:甲賀保健所事業年報

※肺炎については、平成7年(1995年)以前はデータがない

標準化死亡比※については、全国や滋賀県と比較して「循環器系疾患」の心疾患等による死亡率が高くなっています。また、慢性閉塞性肺疾患(COPD)による死亡率も高くなっています。

■図 標準化死亡比の推移



※出典:滋賀県衛生科学センター「滋賀県の死因統計解析」

※標準化死亡比: 全国を100とした場合の指標。基準となる集団の年齢構成を観察集団にあてはめて死亡数の比を表したもの。

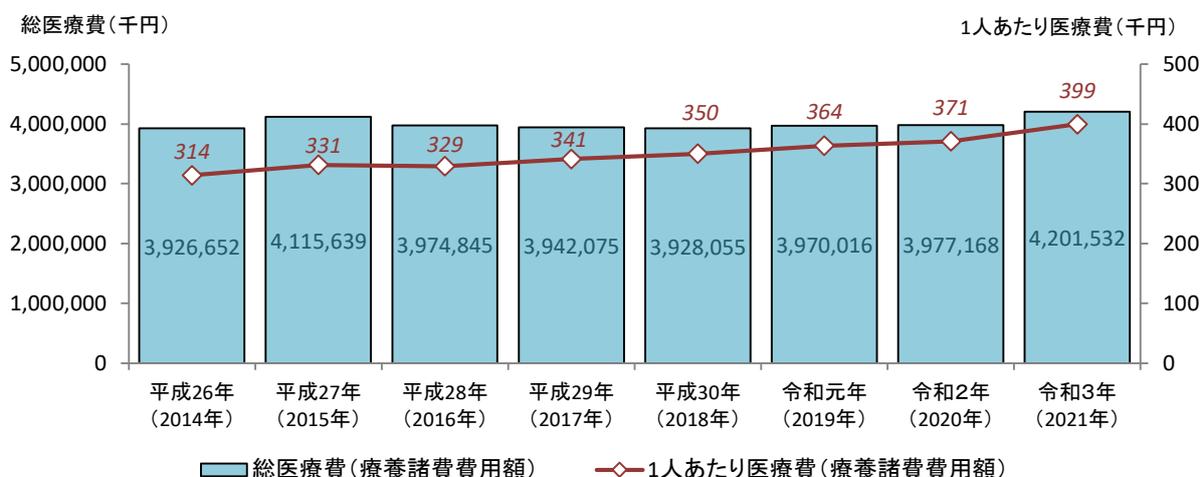
※100を超える数値は全国よりも高い数値。□ 囲みの数値は滋賀県よりも高い数値。

(2)国保レセプト(診療報酬明細書)からみた疾病構造

湖南省の総医療費は平成26年(2014年)の39億3千万円から令和2年(2020年)の39億8千万円までほぼ横ばいでしたが、令和3年(2021年)には42億円まで増加しました。

1人あたり医療費については平成26年(2014年)の31万4千円から令和3年(2021年)の39万9千円までほぼ毎年増加し続けています。

■図 総医療費、1人あたり医療費の推移

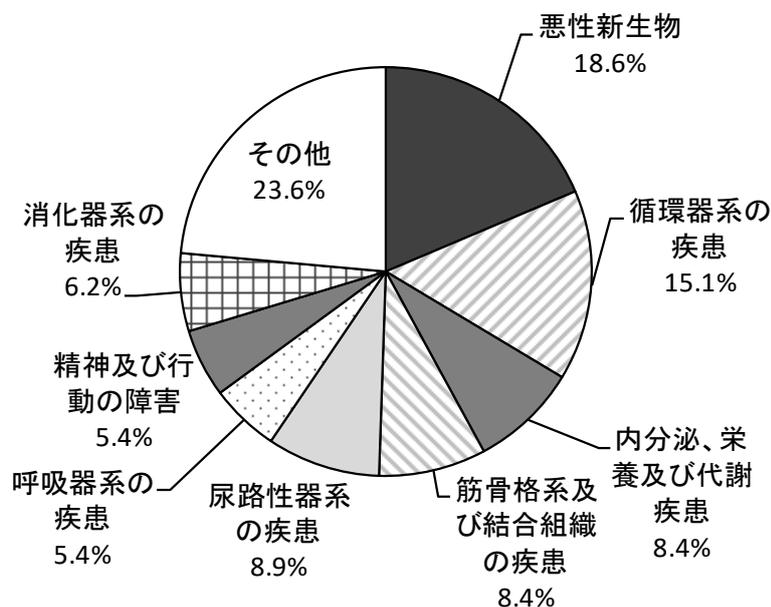


※出典:滋賀県国保健康保険事業状況

湖南省の疾病別医療費の割合をみると悪性新生物が18.6%で最も高く、次いで循環器系疾患15.1%などが続いています。

特に悪性新生物と循環器系疾患は湖南省の医療費の3割を占めており、先の疾病による死亡原因においては心不全と悪性新生物が最も多かったことと重ね合わせると、生活習慣と強く関連する循環器系疾患と悪性新生物が湖南省の留意すべき疾病といえます。

■図 疾病別医療費の割合(診療分・入院プラス外来)



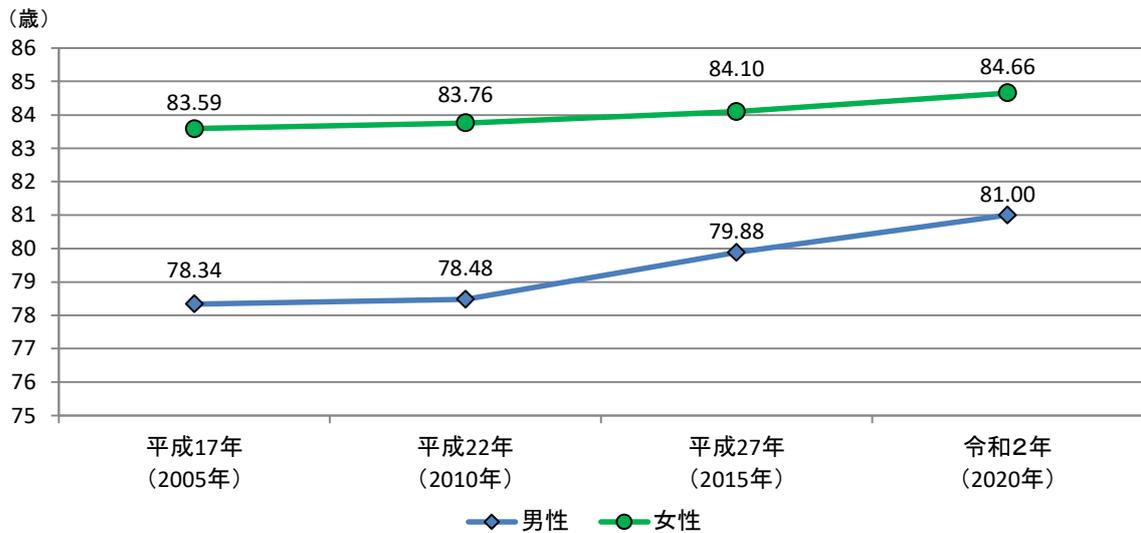
※出典:KDB(国保データベースシステム)疾病別医療費分析 令和4年度(2022年度)累計

(3)健康寿命の推移

健康寿命とは、健康上の問題で、日常生活が制約されることなく生活できる期間をいいます。グラフに示した健康寿命は、健康な状態を、「日常生活動作が自立していること」と規定し、介護保険の要介護度の要介護2～5を不健康な状態とし、それ以外を健康な状態とした場合の年齢です。

湖南市民の健康寿命は、近年少しずつ延伸しており、令和2年(2020年)現在女性84.66歳、男性81.00歳となっています。今後も健康寿命の延伸を目標に取り組みを進め、同時に平均寿命と健康寿命との差を縮めていく必要があります。

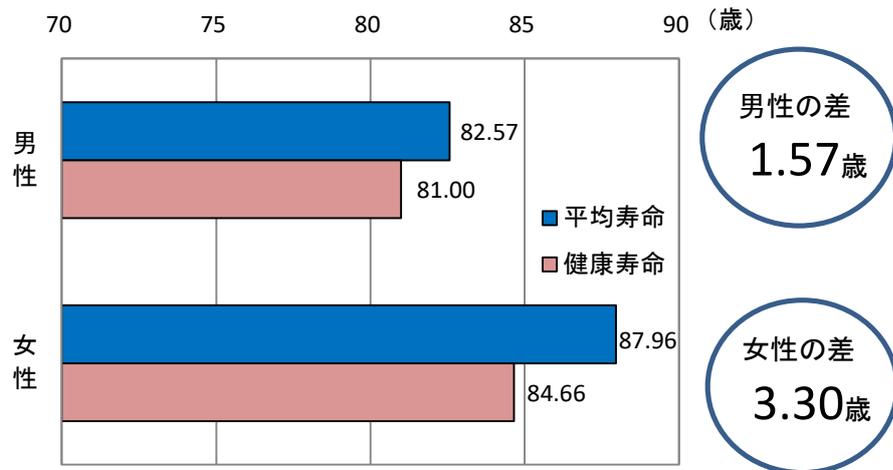
■ 図 湖南省の健康寿命の推移



※出典:滋賀県衛生科学センター作成

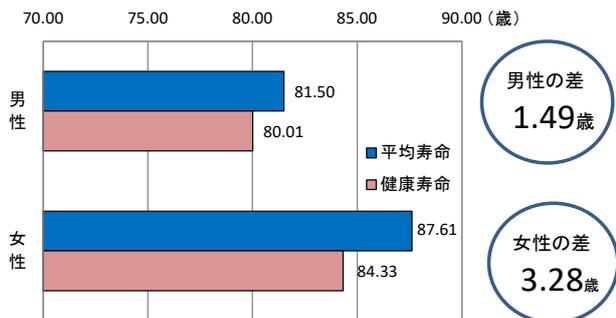
■ 図 平均寿命と健康寿命の差(令和2年度(2020年度))

(湖南省)

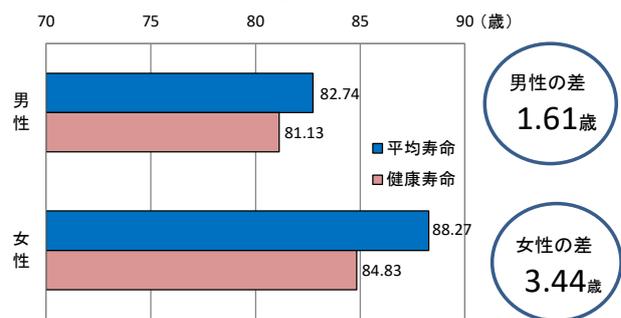


令和2年(2020年)現在の全国の健康寿命は、女性 84.33 歳、男性 80.01 歳、また滋賀県では女性 84.83 歳、男性 81.13 歳となっています。

(全国)



(滋賀県)



※出典:滋賀県衛生科学センター作成